



「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」→「安心」

学校だより

令和 5年 4月 6日
東京都立羽村特別支援学校
校長 外山 裕介

新年度の御挨拶

着任2年目となりました、校長の外山裕介です。令和5年度もよろしくお願いいたします。

さて、コロナ禍にあった3年間で、学校は様々な変化を余儀なくされてきましたが、このような中で蓄えた力を発揮する 때가 来ました。行事が徐々に復活し、飛躍的に発展したICT環境の利活用など、今年度はいよいよ飛躍の年となると信じています。

今年度も「シンプル」→「伝わる・わかる」→「つながる」⇒「安心」をテーマとしながら、シンプルな伝え方を基本とし、子供たち自身が、何をしたらよいか分かり、安心して生活を送りながら、地域社会とつながることによって、子供も保護者も地域も安心する特別支援教育を追求していきます。

今後とも御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年度の学校経営について

4月当初の職員会議で、本校の教職員に対して、以下のようなお話をしました。

育てたい児童・生徒像の重点を「良好なコミュニケーションがとれる児童・生徒」としました。たとえ言葉で伝えられなくても、様々な方法でコミュニケーションしていることを尊重しながら、児童・生徒一人一人が、それぞれにふさわしい、より良いコミュニケーションができる環境を整えていきます。

また、今年度目指すことの重点として以下の4点を上げました。

1. デジタル活用
2. 手元教材の活用
3. シンプルで優しい日本語プリント
4. 社会貢献活動

「1. デジタル活用」のポイントは、動画を作って授業に活用するということや各御家庭とも安全につながることでできるオンライン教育環境をさらに充実させることです。また、個人情報の保護のためにも、紙媒体をデジタル化することにより、情報収集における安全性を高めようと考えています。

(右上に続く)

「2. 手元教材の活用」とは、できる限り個々の児童・生徒の手元に教材を準備することにより、授業中に自分の出番を待つ時間を少なくしていこうということです。

「3. シンプルで優しい日本語プリント」はチャレンジ目標として掲げました。昨年度まではゴシックの太字と明朝体を使い分け、シンプルな分かりやすさを目指してきました。今年度は、必要に応じて試験的に「優しい日本語」を使用したプリントを配布していくつもりです。

Teamsへのログインで分からないことがありますか
～職員室でサポートします～

昨年度も、このようなプリントを、Teamsアカウントを利用していない御家庭に配布しました。日本語以外を話す方にも、できるだけ分かりやすくお知らせするため、挨拶文を無くし、やさしい日本語・短い文章で書きました。例えば、「御来校ください。」「学校に来てください。」「に、御覧ください。」「見てください。」「という表現にするなどの工夫をしています。

「4. 社会貢献活動」は特に、重度・重複学級の児童・生徒についても、工夫して実施していきます。昨年度も動物公園や団地自治会の協力を得て実施することができました。関係の皆様への感謝しております。

今年度につきましても、保護者、地域の皆様への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

「羽村特支のむかし話」

今年度は創立50周年記念式典が行われます。このことにちなみ、毎号の学校だよりに「羽村特支のむかし話」を掲載していきます。

第一回目は、むかし話ではないのですが、こんなお話です。

4月【ハームとトック】

昨年度、児童・生徒・教職員関係者から募集し、選挙を経て、見事、創立50周年記念キャラクターになった「ハーム」と「トック」です。



□羽村市の市の鳥「アオバズク」の双子で、森や林が好きなフクロウの仲間です。

□今年は、校内のポスターに、また、各種プリントの片隅にと、いろいろなどころでお目に掛かると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。